

躍動カフェ（西播磨地域） 議事要旨

1 概要

- (1) 日 時：令和6年6月25日（火）14：00～16：30
- (2) 場 所：たつの市 多目的ホール（たつの市龍野町富永 1005-1）
- (3) 参加者：齋藤知事、西播磨地域（相生市、赤穂市、たつの市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町）に在住・在学・在勤等しており、移住支援、産業振興、観光・交流促進など各分野で活躍している30名
- (4) テーマ：地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち、選んでもらえる西播磨
- (5) 内 容：知事挨拶
グループ別意見交換（A～E グループ）
グループ別意見発表（A～E グループ）
知事総括コメント

2 意見発表の内容

A 移住・定住（子育て・教育・暮らしの充実）

発表者：田中啓介（進行役）

現状と課題：

- 他の町から西播磨を選んでもらうためには、まず入口として、情報発信というものをしないといけない。その発信元が行政主体の場合、多面的に情報を届けようとして、色々な情報を出してしまいがちだが、この地域はこれ、というのを明確にしないと、本当にその情報が欲しい人に届かない。
- 西播磨でブランドにできるものを考えたとき、緑豊かで自然環境に近い西播磨を踏まえると、知事のお話にもあったが、農業だと考える。その中でも有機農業は武器の1つ。
- 西播磨のブランド化に向けて、有機農業を推進することも大切だが、やはり安心安全な食を、この町で暮らす特に子供たちに届けていくことも大切。
- そして知事もおっしゃった通り、生産側として、有機農をするなら西播磨だよねと全国的に選んでもらえるようなまちづくりにできるのではないかと考えました。
- 行政にお願いすることは、学校教育機関に対する給食への支援と手厚い生産支援。

課題解決に向けて：

- 特にネット上で情報を出す場合は、行政に頼らず、民間主体で情報の発信をすることも大事。そしてそのコンテンツとして西播磨と言えは何かと、西播磨ブランドって何だろうということをこのテーブルで話し合いました。
- ブランド化について、環境省が出しているみどりの食料システム戦略※の中に、2050年までに有機農業の割合を25%まで持っていくということが記載されていて、この戦略の全国的なモデル地区として、この西播磨をブランディングできないか。

- 子供たちへの安全安心な食の提供について、参加者の中で保育園の運営をされている方は、給食で無添加、オーガニックの野菜を提供する取組をされており、実際にその園の方針に魅力を感じ、選んでくれている親御さんも多いという。

無添加・有機野菜を学校給食で提供したり、先のモデル地区を目指すことによって、有機野菜を取り扱う小売店や飲食店が増え、安心安全な食を提供できるまちで子供たちを育てたいと思ってもらえればいい。

- 行政による支援について、実際に販路に困る有機農業の生産者がいるので、有機農業で生産するならこういう補助があるというようなメニューがあれば、もっとその有機に対する生産者側も入っていきやすい。

有機農業を後押しするような施策を考えていただきたい。

※みどりの食料システム戦略:農林水産省が策定。将来にわたって食料の安定供給を図るため、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで目指すもの。

B ワークスタイル（多様な就労・働き方の推進）

発表者 栗山こまよ（進行役）

現状と課題：

- 企業側の立場として参加されている方から、「人手不足」について、多くの意見があった。働きたい人がいるのなら本当にぜひ来て欲しいという状況。
- 働く側からすれば、せっかく仕事を見つけてきても、仕事内容によっては、危ないだとか、夜中の仕事はやめてほしいなど、家族の理解が得られないことがある。
産休後で、やっと職場復帰できると思ったら、退職前に担当していた仕事ができない。当然、他の人が代わりをしているので、そのまま転職してしまうことも現実的にある。
- 子育てとの両立についても、小学校に入れば学童保育があるが、定員や時間の制約があり、職業の体系によっては利用できない家庭がある。また、自分の子供が帰ってきたときに「おかえり」と直接言いたい方もいる。
介護も、西播磨地区は大変高齢者が多く、親世代の介護などで、病院に連れて行かないといけないという方もいる。
- ハローワークに求人情報を掲載する場合、全て文章で出す必要があり、画像や動画を活用して募集することができない。そのように文章で出すことも、雇い主側にすれば、ひと手間で、伝えたいことが十分伝わらない、伝わっていないという側面もある。

課題解決に向けて：

- 雇い主側は、作業の洗い出しが必要。業務内容を細分化すると、簡単な単純作業も多い。
そういった業務を「成果制」として、例えば、家庭環境に配慮して、子供が寝静まった後に作業しても良い、というような考えがあってもいい。

その上で、テレワークできるものはテレワーク、委託できるものは「就業マッチングプラットフォーム」というものを立ち上げて、そこに出た仕事を引き受ける、といったことができればいい。

- 日々の業務を成果制にすれば、色んな人が隙間時間で働けたり、これだったら私でもできるといった思考になったり、多様な働き方の導入につながる。

テレワークの導入にもつながる。毎日でなくとも、例えば、週に2～3日を在宅で、残りは会社に出勤して、という働き方があってもいい。

仕事の中でも働き方でも、選択肢を増やしてもらいたい。

- 高齢者、子育て中の方、介護に携わっている方、障害のある方など、多様な人々が簡単にアクセスできるような公の求人サイトやプラットフォーム、かつ求人にあたって動画などの掲載ができれば助かるので、県にぜひ願います。

就業マッチング認定企業といったものや、よく働いた人に対しての認定ポイントなど、対象者にお金などで還元できる仕組みがあればとても良い。少しでも多くの人が社会に出て、人の役に立つ、誰かにありがとうと言われるような体験をしてもらいたい。

C 産業（地域産業の担い手確保）

発表者 谷口悠一（進行役）

現状と課題：

- 地域の交通の不便さについて、西播磨地域内の会社は地元の方だけでなく、結果的に西播磨以外から採用することが多いが、通勤に1～2時間かかってしまうため、そのハードルをまず超えないといけない。
- 地域の魅力が伝わっていない・知らないことについて、西播磨全体で共通のコンセプトを考えるのは難しいが、西播磨の地域単位では非常に魅力のある地域もある。
- 若い方が働きたい会社の1つは、職場の雰囲気の良い会社。

課題解決に向けて：

- 人によっては、西播磨までの通勤が不便と思っていない方もいるので、そういう人を採用するというやり方がある。

交通の不便さを物理的に解消するためのアイデアとして、ライドシェア、乗り合いタクシーを増やしていく。こういった新しい、日本ではまだ出来ていない取り組みを実験的にどんどんやってみてはどうか。

- 西播磨地域内の会社へ勤める人単身者や若い世帯向けに、西播磨や企業の近くに住める住宅をつくと良いのではないか。
- 地域の魅力が伝わっていない・知らないことについて、西播磨の地域単位では非常に魅力のある地域もあるので、そういうところをもっと知ってもらいイベントをやっていく

べき。合同説明会のような一般的なイベントではなく、飲み会のようなイベントで、地域の企業と地域で働きたい方が気軽に話し合えるようなイベントがあるといい。

- 職場の雰囲気が良い会社を若い方が望んでいるというのは、非常に大事な考え。

最終的には結局どういう人と働けるかが重要で、個々の会社自体の努力も必要だが、会社の魅力を高めるために、地域自体のブランディング、そこから採用できた方々に続き働いてもらう会社個別のブランディングも大切。

D 産業（地域産品の魅力づくり・魅力発信）

発表者 石井靖敏（進行役）

現状と課題：

- 西播磨地域産業の課題として、衰退産業をどう活性化していくか、製品の付加価値をどう高めていくのか、販路の拡大・どう拡大していくのか、と大きく3つで考えられる。
- 地域全体として、西播磨全体でのブランド力、地域の産品としてのブランドをどのように高めていくのかが重要。

それは地域全体のブランドを作るというよりは、それぞれの分野や企業のブランド力を拡大していきながら、それを横つなぎし、ネットワークのような形で全体共有しながらアピール力を強化し、発信していくべき。

課題解決に向けて：

- 他分野の横のつながりについて、コラボして何かに取り組むのはどうか。例えば、企業と農業、福祉と農家などがつながるといった、そういったコラボやつながりが新しい商品やサービスを生み出すのではないか。そういったつながりが、この先西播磨の魅力につながるっていくと考える。
- 今日参加しているこのチームでは、何か新しいことをしようということで、パレットの企業と皮革の企業がおられるので、かばんを作るプロジェクトをこれから行おうということになった。

作ったかばんで農家のネギや太子のネギ、御津の花や苗、相生の国産牡蠣やユズを使った商品を全部入れた商品をパッケージで作って売り出してはどうか、というアイデアも今生まれたので、ぜひ行政の方もご支援いただければ。投資をしていただければ新しい商品を作るので、そういったことで、人や地域や産業を混ぜ合わせながら、地域の魅力を全体で盛り上げていきたい。

E 観光・ツーリズム【誘客・交流人口の拡大】

発表者 渡部政弘（進行役）

現状と課題：

- 観光客の取り込みの観点で、情報発信の力が弱い。観光客はネットで検索することがほとんどだが、滞在型観光に限らず、通過型観光としても、なかなか情報発信ができていなかったり、情報を誰に向けて発信するか定めきれていなかったりする。
また、個人で SNS 等で発信していくのには限界がある。知ってもらえるとすごく魅力的なコンテンツだが、なかなかそこまでとり着いてもらうのが難しい。
- また、観光で経済を回していくためには、地元の方の協力や理解が重要だが、もともと観光客が少ないところはなかなか理解が得にくいという側面がある。
- 交通機関や宿泊先の数が少ないことは西播磨の課題。
例えば、宍粟市は、グランピングやキャンプ場が多数あるが、電車が通っておらず、交通の便が乏しい。
- 万博を契機に、外国人観光客をターゲットに何か体験型の観光をしようとしても、英語力が無く、通訳を呼ぼうとするとかなり費用がかかる。

課題解決に向けて：

- 観光客の取り込みについて、西播磨の隣は岡山県なので、例えば、岡山の観光情報のところに隣の兵庫県の情報も掲載するなど、県として近隣府県と連携するのも案かと思う。
個人で SNS で情報発信していくのには限界があるので、それぞれの活動をつないだパッケージツアーのようなものを作り、横のつながりで展開していくのもよい。
- 人の流れができる、まち全体が活気づいて経済も回っていくはず。地域の方の協力があれば、より地域が豊かになっていくと思うが、ボランティアでやるのではなく、観光業としてしっかり経済をまわしていく。それを個人でやるのは難しいので、行政側の方でも後押しをしてもらいたい。
- 宿泊先が少ない市町があることについて、もちろん各市町にあればいいが、外国人や旅好きの人からすると、西播磨を1周するのはそれほど大した距離ではないので、例えば、赤穂、相生、上郡で通過型観光をしながら、最後は宍粟で泊まるといったモデルルートがあってもいい。
そのモデルコースを作っただけでなく、例えば、そこでレンタカーが必要となった時に、スタンプカードのようなものを設けて、モデルコースの各ポイントにそこを回るとスタンプを押すことができ、レンタカー返すときにすべてのスタンプを集めると2割キャッシュバックがある、といったような補助があればいいなと思う。
今日、それぞれすごく良い場所で、良い取組をしているということが分かったので、そこをつないでいくことが大事。
- 外国人観光客や身体に障害のある方などにも十分対応ができるような環境整備のための補助があると、色々な方に対してもやさしい観光のまちになっていくと考える。

3 知事総括コメント

- 限られた時間でしたが、多岐にわたる分野で各グループとも大変熱心にご議論いただき、ありがとうございます。
- 本日は移住・定住、ワークスタイル（多様な働き方）、産業の担い手確保、同じく、産業の魅力ある商品づくり、そして交流人口の拡大というテーマで議論いただいたが、これらは兵庫県全体でも大事であり、特に西播磨でも非常に大事。
西播磨南部には海岸があるが、そのベイエリアを中心に人気が高まってきており、これからさらにお客さんが来るようになると思うし、そういうふうにしていくことが大事。
- Dグループで、コラボして商品を作っていこうというような話があったが、この躍動カフェの1つの目的は、参加者の皆さんからアイデアをいただいて県政に反映していくというものだが、もう1つは、参加いただいてご縁があった皆さんが、またこれからいろんな機会と一緒に何かを盛り上げてみようかとか、何かこういうことをやってみようかというきっかけにさせていただくことも目的としてあるので、今日のご縁をきっかけに、いろんな取組の輪が広がっていければと思う。